

第1号議案 平成 29 年度事業報告及び活動決算の件

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

【事業概要】

平成 29 年度は、八王子市民活動協議会(以下:協議会)が八王子市から指定管理者として 10 年契約で八王子市市民活動支援センター(以下:支援センター)の管理運営を指定された7年目の年度で、八王子市の指導の下、着実な運営に努力してまいりました。

支援センター主催の各種イベントは着実に実行されています。「NPOパワーアップ講座」は各団体から好評を得て実行されています。また「ゆめおりファンド事業」については、従来の「物」の支援から「人財」の支援への取り組みが活発に進んでいます。「資金」の支援については勉強期間として、各方面の事業を学びました。プロボノ・チームの動きも着実に進み、成果報告会等も開催されました。「はちコミねっと」も順調に進んでいます。

その他、日常業務においては、会議室の利用や市民活動相談業務等の支援は着実に実行されています。とりわけフリースペースとしての「サポハチガーデン」の利用は活発になっており、多くの市民団体の方々に活用されています。

全体としては日頃の活動が評価され、「指定管理者制度」モニタリングの結果、一般的に良好との評価をいただきました。支援センターの運営は、スタッフ及び協議会関係者の協力も得て、順調に推移しています。

協議会の自主事業としては、継続事業としてのいちょう祭り「わくわく広場」の活動や「お父さんお帰りなさいパーティー」(略称:オトパ)について、それぞれ実行委員会方式で運営されていますが、その主体団体として参画しています。とりわけオトパに関しては、29年度は前年度に引き続き年 2 回の開催を実現しました。29 年 9 月開催の南大沢での第 19 回オトパは、南大沢地域の特性を活かし、若者や女性向けの企画を存分に取り入れると共に、首都大学東京の学生(ダンス部の参加も含む)にも協力参画して戴き、若さのあふれたイベントとなりました。30 年 3 月に行われた第 20 回オトパは労政会館にて約 40 団体の参画を得て開催しました。協力いただいた諸団体のツアーガイドは好評でした。特別講演の「もっと知ろう八王子のこと」は元 NHK 放送プロデューサーの間宮章氏によりおこなわれ、好評でした。

国立東京工業高等専門学校(以下:東京高専)「サイエンスフェスタ」への協力も行いました。平成 25 年度から企画運営を受託している「はちおうじ志民塾」は協議会のネットワークを活かし、第 9 期に当たる 29 年度講座を開催し、受講生 31 名という多人数の参加者を得て無事終了することが出来ました。東京都や企業が行う広域的な市民活動支援事業の窓口業務としては従来の西武まちづくり活動助成金とともに、東京都が運営する「女性・若者・シニア創業サポート事業」の窓口受付業務とアドバイザー業務を並行して実施すると共に事業計画評価を担当しました。今年度は融資受付件数も増え、ハンズオン支援件数も増えましたが、昨年来の体制で対応しました。

特筆すべきは、27 年度から準備期間として始まった八王子市の市制施行 100 周年記念事業が、29 年度は本番年度を迎え、100 周年記念事業イベントとして 29 年 5 月の八王子駅北口西放射線ユーロードでの「八王子 NPO フェスティバル」開催と NPO 月間行事の開催を行いました。八王子労政会館、南大沢文化会館、小津会館を結ぶ三元中継の「NPO 八王子会議」や八王子の文化や歴史を訪ねる「まち歩き」等の行事は好評でした。

もう一つの特筆すべき行事は、政策研究部・絆グループからネットワーク推進部地域ネットグループに引きつがれた「活き生きハンドブック」への取り組みです。平成 27 年度から大きく国の高齢者対策への取り組み方が変わりました。要介護分野は国が対応し、要支援分野は市町村への分権という大きな転換を指向し平成 30 年度を移管目標年度に設定しておりました。これに従い、八王子市も新しい「介護保険・日常生活支援新総合事業」を展開することとなりました。協議会は独立行政法人福祉医療機構が行う助成金事業に 27 年度から応募し、29 年度も 3 年目の応募を行い採択されました。29 年度は前年度に引き続き多分野の支援活動をする団体を紹介すべく企画した「活き生きハンドブック」第 3 刊の発行を行いました。関連するシンポジウムの開催等も行いました。ハンドブックは各方面へ頒布し、活用して戴く取り組みを進めております。29 年度の取り組みでは、30 年度以降の事も考え、ハンドブックの内容充実とともに ICT 化に力を注ぎました。同時に、簡略版の紹介冊子は、軽量化・低廉化を考慮し、オトパ冊子との統合を実施し、効率化と低

廉化を実現しました。更にタブレットによる広報活動にも注力しました。首都大学東京で行われている「みなみおおさまカフェ」では生き生きハンドブックの広報等を市民の皆様にご覧いただき、ありがとうございました。

協会としての諸々の課題はありますが、平成 29 年度を振り返ってみると収支面でも堅実に運営されており、充実した一年間であったと認識しています。

【1】支援センター事業

1. 企画運営会議の開催

四半期毎に1回開催しました。会議の目的は、支援センター四半期毎の活動報告並びに事業運営に関する事項を、指定管理者である八王子市民活動協議会（以下協議会）と協議、意見交換し支援センターの適正な運営やサービス機能向上を図ることです。

評価と課題

今年度は主に、将来のファンド事業における、資金支援事業に取り組むことや社会環境変化に対応した支援センター事業を検討するプロジェクトチームの立ち上げについて協議しました。

2. 各会議の開催

毎月1回、月初めにセンタースタッフが一同に会したセンター会議を開催しました。会議の目的は支援センターの利用状況確認、各部活動報告及び予算執行状況の確認とともに業務全体及び各部門の課題や取り組みについて検討・意見交換を行い、課題の共有化等です。さらに、部門間の連携を深め、支援センターの総合力を高めるため、部長会や利用者対応の正確性を高めるため定期的に夜勤担当者との会議も実施しました。

評価と課題

常勤、非常勤混在の勤務体制のため、スタッフ同士の連携、情報共有は不可欠で、会議内容が報告や確認が多くなる傾向にあるため、事前に資料を配布し、貴重な時間をできるだけ討議を通じて、ニーズに対応したサービス向上やセンタースタッフのレベルアップに役立てます。

3. 情報セキュリティ委員会

様々な実施事業をとおして市民や団体から、利用目的を明らかにしてお預かりしている個人情報適切に管理し、紛失、改ざん及び漏えい等の事故を起こさないことは、関係市民、団体との信頼関係の基本であり、また、八王子市の施設として市に準じる情報管理が求められていると認識しています。

評価と課題

法令や情報セキュリティマニュアルを遵守し、組織内のPDCAを回し、適正な情報管理に努めるとともに、可能な限り八王子市の指定管理者における情報セキュリティーガイドラインに沿った管理を進めていきます。

4. NPOの基盤強化支援の充実

団体の基盤強化や信頼性の向上による市民活動の活性化、社会的認知の向上など、その自立支援のため、団体運営の基本（ミッション、運営、情報発信、会計）等、実務的内容で「NPOパワーアップ講座」を実施しました。また、「ゆめおりファンド事業」では引き続き情報開示を基本的条件として、寄贈を受けた物品を無償提供し、団体の資金負担軽減をサポートすることができました。また、団体運営の伴走支援として、ノウハウやスキルを生かして地域参加、社会貢献を考えている「人財」とサポートを希望する団体とのマッチング事業である「人財支援事業」は2年目を迎え、今年度も2団体のサポートをする事ができました。

評価と課題

「NPOパワーアップ講座」は団体運営基盤強化のベーシックなカリキュラムを守りつつ、効果的な講師の選定に勤めました。また、「人財」による団体伴走支援は2団体のサポートをすることができましたが、この事業はNPO活動を社会、市民が支える環境を進めるためでもあり、

さらに人財、NPO、企業などと連携、交流を推進することが必要です。

5. 調査研究活動

市民活動に関する多様な相談に対応すると共に、効果的なサービスを提供するためには社会環境の課題やNPO、市民活動の実態把握が大変重要であり、スタッフが外部イベントや講習会等へ参加しスタッフのレベルアップに努めました。また、今年度も利用満足度調査を実施しました。

評価と課題

アンケート結果は、スタッフに対して、コーディネート力を期待する声もあり、引き続きスタッフの機能アップに努めます。「スタッフの対応」と「全般的な満足度」については、「満足」、「やや満足」を併せて99%に近い高評価をいただきました。

6. 八王子市環境マネジメントシステムへの取り組み

平成18年度から運用されてきた環境マネジメントシステム「L A S - E」は、今年度より八王子市役所環境マネジメントシステムへ移行しましたが、それぞれの組織や事業が環境配慮行動に取り組むことにおいては変わらないということで、引き続き支援センター内の基本的な環境配慮行動を行うとともに、支援センターの特性である団体活動サポートやネットワークング事業を通して環境マネジメントに取り組みました。

評価と課題

環境活動に取り組む団体の活動紹介、情報発信をサポートすると共に、多様な団体が、八王子が誇る環境の持続的保全を意識し、住み続けたいまちづくりにつながる活動が活性化することが必要と考えています。また、引き続き、企業や団体等の未利用の様々な物品を寄贈いただき、市民活動団体にリユースしていただく資源の有効活用としてのファンド事業も推進していきます。

7. 施設利用状況

交流室	活性化室	フリースペース	コピー機	印刷機	面談相談	来所他	電話相談	電話他	メール相談	メール他
968	789	3,205	483	201	87	965	53	2,952	7	5,963
892	753	3,488	470	188	92	933	86	2,728	10	4,633

上段：平成29年度、下段：平成28年度 *添付資料参照：「平成28年度施設・会議室利用状況報告」

評価と課題

今年度、交流スペース、活性化スペースの利用は、昨年度に比べ、合わせて112コマ増えました。その要因としては、平成28年度10月より、利用者の利便性を考慮し、会議室の予約受付を1ヶ月前から2ヶ月前に変更したことが考えられます。フリースペースは、簡単な打ち合わせに活用するなど、多くの方に気軽に活用いただいています。相談は、従来の窓口やメール、電話等に加え、専門相談やファンド部のプロボノワーカーによる人材支援など、多様な形で相談に対応しました。

8. 「指定管理者制度」モニタリング実施結果

実施事業における「市民サービスの向上とコスト削減」の検証を目的に行われている指定管理者モニタリングは「定量的評価」と「定性的評価」において検証が行われました。

評価と課題

結果は「事業計画の水準を満たしている」という“B”評価でした。評価コメントは高い満足度を維持し、「満足」、「やや満足」が96.2%を占めるなど、多くの市民に満足度の高いサービスの提供やファンド事業での「人財支援」で具体的な成果を出すとともに、「はちコミねっと」の運営にあたり、団体への操作講習会の実施や団体からの情報発信の確認・承認作業など適切な管理運営に努めたとの内容でした。また、近郊の中間支援施設への訪問から得た知識やノウハウを本市市民活動支援センターにマッチした取組に発展させ、市民活動団体の更なる

基盤強化及び活動の活性化につながる取組みへの期待が示されました。

9. 総務部の活動

(1) 相談対応及び専門相談

支援センター業務の大きな柱である相談業務は、相談者に寄り添い、受け止めるという基本的な考え方のもとスタッフ全員で対応しています。専門相談は NPO 経営支援アドバイザー派遣制度の活用やNPO法人との提携により、経理、労務、税務等の相談に対応しています。

評価と課題

面談、電話、メール等による相談内容は、地域を包括的に支える仕組みづくりが求められる中、居場所づくり、子ども食堂、コミュニティーカフェなどに取り組もうとする方々からの資金や場所探しに関する相談などがあつたことや、引き続き団体法人化の相談も継続しています。窓口相談業務を一步進めた伴走支援事業でもあるファンド事業の「人財」支援も実績を上げており、今後とも相談対応の手法の多様化、スタッフのスキルアップに取り組んでいきます。

(2) スタッフ外部研修（人材育成）

7月14日「NPOと行政の対話フォーラム」日本NPOセンター / 8月1日「目的に応じたワークショップ」新宿NPO協働センター / 10月31日「障害・障害者に対する知識、理解を深めるための職員研修」八王子市 / 11月26日「若い力と市民団体の連携を考えるシンポジウム」東京タウン誌会 / 11月29日「支援力アップ塾実務ステップアップ編・多様な人との協働の進め方」東京ボランティアセンター / 「伝えたい人の心に届くデザイン力アップ講座」新宿NPO協働センター / 2月11日「合理的配慮から見る相互理解」東京ボランティアセンター / 2月20日「全面施行！改正NPO法対応定款変更&登記手続き徹底解説セミナー」新宿NPO協働センター

評価と課題

相談対応やコーディネート力向上、効果的な講座開設を目的に、スタッフのスキルや知識の習得のほか、講座や講師との出会いを積極的に進めました。こうした知見を多様なセンター事業に生かしていきます。

(3) 対外対応

評価と課題

支援センターは、来館の方々に必要な対応をすると同時に窓口や電話対応だけでなく、積極的に現場に足を運び、様々な方々や団体との交流により、ネットワークづくりや連携、協働の基礎づくりを進め、コーディネート力向上や支援センター認知度アップに取り組めます。

(4) 施設内備品の整備

利用者のサービス向上やスタッフ事務の効率化のため各種備品等を購入しました。

USBメモリー 1個 / ノルム2段ワゴン 1台 / ケーブルボックス 2台 / 電動ポット3L 1台 / パソコン 4台

評価と課題

今後とも、予算措置を施しながら、市民や団体の活動の場、交流の場、作業の場としての機能充実を図るとともに、スタッフ事務の効率化を推進していきます。

(5) 図書・資料の充実

市民活動の情報センターとして様々な書籍、資料を配架し、閲覧、貸し出しを通して活動や研究の参考にしていただいています。今年度も延べ76冊の書籍の購入や寄贈を受け、図書コーナーに配架しました。主な書籍は下記のとおりです。

「知っておきたいNPO」(日本NPOセンター) / 「ファシリテーションが会議・組織・社会を変える」茨城NPOセンター / 「理事会を育てる9つのステップ」IIHOE / 「あなたの経験をみんなの学びに」エンパブリック / 「寄付白書」日本ファンドレイジング協会 / 「プロボノ新しい社会貢献新しい働き方」嵯峨生馬 / 「子ども食堂をつくろう！」NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 等

評価と課題

今後とも予算措置を施しながら、ニーズや社会背景に対応した図書・資料をそろえ、市民活動の情報センターとしての機能を果たしていきます。

10. 広報部の活動

広報部は、団体活動を市民の方々に紹介するだけでなく、社会を取り巻く様々な課題をタイムリーに捉え、そうした活動の中から市民や多様なセクターが気付きや連携の糸口を得、まちづくりや地域参加のための市民力、地域力向上に貢献できることもねらいの一つとして広報紙「Support802」を中心に情報発信を行っています。また、今年度多様な人脈、経験を持った広報部長を迎えることができたこと、ライターを担うサポートスタッフ2名の参加を得たことなどにより、取材活動、編集活動をさらに効果的に進めることができました。

(1) 広報紙 SUPPORT802

1) 紙面構成

文章、写真、図など効果的に組み合わせ、手にとって読んでいただける紙面づくりを目指し、サポートスタッフからの助言を得ながら、デザインコンセプトの転換を図りました。1面・2面は団体への取材をもとに記事を構成し、1面は写真を主体に視覚的に読み手の興味を惹くページとし、2面を団体へのインタビュー記事としました。3面は助成金情報、当センターおよび八王子市民活動協議会からのイベント告知のほか、「まちのスポット」と題した地域情報コーナーを配置。4面はアクティブ市民塾、NPO等団体イベント、ボランティア情報コーナーを設ける形での紙面構成としました。

2) 紙面の内容

農業、福祉、貧困、スポーツなど、多様な分野を特集記事に取り上げました。そして、センター事業については、情報部の「はちコミねっと」、啓発部の「NPOパワーアップ講座」、ファンド部の「人財支援」事業に関する記事を取り上げ、各部と連携することでセンター機能としての総合力発信を心掛けました。また、活動を始めたばかりの団体や掲載を希望する団体の活動を紙面で取り上げ、その活動の活性化をサポートしました。

【評価と課題】

多くの市民の方に市民活動を知る、関わるきっかけを提供するため、「手にとってもらいやすいデザイン」を目指し、特に1面を写真主体のデザインコンセプトに変更しました。引き続き工夫を重ねつつ、デザイン変更による効果を意識しながら検討を重ねます。また、広報紙を発行するだけでなく、これを活用しての広報活動にも力を入れるため様々な機会を通じて広報紙を配布し、センターのPRや市民活動への参加のきっかけをつくっていきたいと考えています。

(2) メールマガジン八王子市市民活動支援センターSUPPORT802 だより

掲載内容は、「巻頭言」、「アクティブ市民塾」、「助成金情報」、「イベント情報」、当センター、八王子市民活動協議会、八王子市からの情報を毎月初めに発信しています。特に、「巻頭言」は、その時々タイムリーな話題や、広報紙SUPPORT802と連動するなど個別の情報発信にとどまらず、興味を持って読んでいただく入口の言葉として位置付けています。また、個人では入手しにくい市外の多様な活動も知っていただくことで、個人や団体の活動の幅を広げていただくことも期待しています。

【評価と課題】

広報紙の紙面に盛り込みきれない情報など、メールマガジンならではのコンテンツのあり方を、さらに検討し、市民や団体活動に役立つ情報提供を心がけていきたいと考えています。

(3) 発信情報のチェック体制

様々な情報発信は、正確な取材に基づき、適切な表現、用語の使い方などでなされることが信頼される情報の基本であることから、収集した情報をスタッフ、サポートスタッフの意見等を反映しながら、紙面づくりを行っています。

【評価と課題】

今後とも、正確な取材、情報収集に基づき、多様な意見、視点で検証し、楽しく、安心して読んでいただける情報発信に取り組んでいきます。

11. 啓発部の活動

市民の方と市民活動団体をつなぐアクティブ市民塾、団体の運営基盤強化を狙ったパワーアップ講座をはじめとする支援講座など、多角的に市民活動を支援・周知するためのプログラムを、今年度も実施することができました。多くの講座で定員を上回る反響をいただき、啓発部の企画がニーズに沿ったものになっていることを実感することができました。

種類（大項目）	講座名	予定	実績	延べ参加者数（昨年）
アクティブ市民塾	アクティブ市民塾	6回	6回	141 (171)
市民活動支援講座	パワーアップ講座	7回	7回	184 (133)
	NPO研修	1回	1回	8 (16)
	交流会	1回	1回	14 (21)
市民活動実践講座	スキルアップ講座	1回	2回（連続講座）	24 (45)
合計				371 (386)

（１）アクティブ市民塾（161回～166回）

月日	分野	団体名	タイトル	定員	申込 人	参加 人数
6月7日 （水）	子ども福祉	NPO 法人かたつむり	個性によりそう子育て 発達障害への理解を深める	20	39	35
7月26日 （水）	健康スポーツ	吹矢サークル 「遊矢家」	親子で吹矢体験	20組	23組	17組
8月23日 （水）	環境農業	NPO 法人 すまいるカフェ	親子クッキング 八王子産へビウリ入りカレーづくり	13組	7組	7組
10月29日 （日）	経済	NPO お金と金融・経済知識を学ぶ会	ライフプランとはじめての資産運用	15	25	14
12月3日 （日）	観光	NPO 法人滝山城跡群・自然と歴史を守る会	続日本100名城 枯葉舞う滝山城跡を歩く	30	44	32
2月24日 （土）	文化農業	里山農業クラブ・メカイ保存普及会	八王子そだちの民俗技術 目籠(メカイ)作り体験	20	250	20

【評価と課題】

累計160回を越えたアクティブ市民塾は、団体と市民の出会いの場だけではなく、イベントの準備を通し、センターのイベント開催のノウハウを団体に伝える効果もあり、年6回の開催で準備を団体と丁寧に進めることができました。同時に、団体紹介を複数回での参加も可能にしたことからそれぞれ前回とは異なるテーマ・内容の講座となり、団体の新たな一面を紹介できました。また、講座の受付方法の申込先着順に課題もあることから、市とも相談した結果、定員50名を超える規模の講座以外は抽選とすることとしました。

（２）支援講座1（パワーアップ講座）

	開催日	テーマ	講師	参加人数
1	8月10日（木） 14：00～16：30	居心地のよい組織の作り方	長田英史さん （NPO 法人れんげ舎代表理事）	26
2	9月21日（木） 14：00～16：30	仲間の増やし方	長田英史さん （NPO 法人れんげ舎代表理事）	29
3	10月18日（水） 14：00～16：30	情報発信の重要性と効果的な発信方法	手塚明美さん（認定NPO 法人藤沢市民活動推進機構）	

			副理事長・事務局長	28
4	11月16日(木) 14:00~16:30	人が集まる講座とチラシの作り方	坂田静香さん(NPO法人男女共同参画おおた 理事長)	44
5	12月14日(木) 14:00~16:30	NPOを支えるお金	小堀悠さん(NPO法人NPOサポートセンター事務局長)	21
6	1月18日(木) 10:00~16:30	審査員の視点から学ぶ助成金申請書の書き方	小堀悠さん(NPO法人NPOサポートセンター事務局長)	18
7	2月8日(木) 14:00~17:00	NPOが目指すもの	長浜洋二さん (株式会社PubliCo)	19

【評価と課題】

より多くの方が快適に参加できるよう外部会場を利用し、人が集まり活動を行う際に必要な視点「人・情報発信・お金」をテーマに講座を組み立てました。これにより、法人格を持った団体から、ボランティアグループまで、多様な団体活動の運営基盤強化つなげる連続講座にすることができました。課題として、各団体2名まで参加可能とすることで当日の出席人数にばらつきが出ることもあり、座席配置やワークショップなどの組み立てに工夫が必要となることもあり、今後とも円滑な講座運営を検討していきたい。

(3) 支援講座2 (NPO研修)

開催日	テーマ	講師	定員	申込人数	参加人数
11月25日(土)	団体内の情報共有にFacebookを活用する	情報部長 田中英俊さん	5団体	8団体 (10名)	7団体 (8名)

【評価と課題】

情報発信のツールのひとつとしてFacebookが挙げられますが、団体内の情報共有のツールとしてFacebookを活用するという講座を実施しました。パソコン実習を伴う講座によくある課題として、持ち込みPCがうまく動かない、受講者の技術レベルに大きな差があるなどがありました。それを想定し少人数の講座でしたが、今後とも円滑に講座運営ができるよう検討します。

(4) 支援講座3 (交流会)

開催日	テーマ	参加者数
3月11日(日)	パワーアップ講座受講団体・者の交流会	1部14名 2部13名
対象	これまでのパワーアップ講座受講団体・個人	
内容	パワーアップ講座で学んだことを取り入れた(成功)事例の紹介 / 参加団体(者)のアピール・紹介 困りごと相談 最新情報共有 懇親会	

【評価と課題】

パワーアップ講座を始めて4年が経ちましたが、この講座は連続講座ならではの受講生同士の交流・情報交換の場ともなっています。年度を超えた受講者の交流会を開催し、類似の活動をしている団体同士の連携のきっかけ創出や団体の新たな試みを知るとともに、講座での学びを活かしている事例の紹介など有意義な交流会となりました。

(5) 実践講座1 (スキルアップ研修)

開催日	テーマ	講師	定員	申込人数	参加人数
6月4日(日)	ライター講座(1回目) ライター講座(2回目)	日経HR 宮崎悟さん	10名	33名	12名

【評価と課題】

活動を行うことに忙しく、情報発信をしていない、あるいは得意としていない団体が多いのが実状です。一方、自身は社会貢献活動を行っていないが、書くことが好き、あるいは得意としている人達があります。こうした方々に団体を紹介してもらうことで団体の活動を広めることができると考え、ライター講座を開催しました。多数の応募があり予想を上回る反響がありました。現

在、外部サポーターとして2名の受講生が支援センターの広報紙やイベント報告作成に参加し、1名の方が、自身に関わるあるウェブ記事のテーマに市民活動を取り上げるなどの活躍をされています。

12. 情報部の活動

市民や団体に的確でわかり易く情報を伝えるため二つの仕組みを構築しています。地域コミュニティー活動応援サイトとしての【はちコミねっと】は団体活動の投稿型ソーシャルメディアとして、ホームページは団体活動向けの情報アーカイブとして機能しています。今年度も利用利便性の向上を図るべく継続的な改良を施しました。センター内の ICT 環境の整備では、指定管理者情報セキュリティガイドラインに沿いウイルス対策、個人情報対策、ID とパスワードの管理を強化しました。

(1) ホームページの維持・更新

前年度の大幅リニューアルを経て、今年度はその運用において現れたさらなる改善点および、不具合、表示文言の変更など約 30 項目の改良作業を実施いたしました。

【評価と課題】

改良を重ねることにより、一定の完成度レベルまで到達したと考えられますが、今後は急増するスマホユーザー向けの対応、そして Facebook や紙媒体などとのメディアミックスによる支援センターの認知度向上が必要と考えています。

(2) 【はちコミねっと】の活性化

登録団体数も順調に増え、このサイトを利用した情報発信も全団体の 40%に達し、他市の同種サイトを大きく上回る利用が見られます。

【評価と課題】

利用者である市民や団体から特段のクレームもなく、順調に活用されていると思いますが、今後のさらなる普及展開に関しては、地道な啓蒙活動と ICT リテラシー教育を併用して行っていますが、今年度の八王子市市民企画事業補助金の募集要項に助成を受けた団体は【はちコミねっと】に登録、活用が明記されたことで利活用が活発になる仕組みの構築が進んでいます。そして、支援センターのホームページと同様、メディアミックス戦略が有効と思われ、メルマガ会員の増加も課題と認識しています。また、利用利便性やシステム上の課題も残っており、今後とも、八王子市と相談しながら検討を重ねてまいります。

(3) 職場内 ICT 環境の整備

八王子市の指定管理者情報セキュリティガイドラインに沿い、ネットサービスの運用ルール、メールの運用ルール、ファイルサーバーのセキュリティを強化しました。また重要な業務データをランサムウェアから守る方策を実施しました。また、スタッフの業務効率化を図るための高速化方策を実施しました。

【評価と課題】

まだいくつかの業務用パソコンや、貸出用パソコンも性能レベルにおいて改善が求められるものがあることから、予算措置を施しながら今後検討していきます。

13. ファンド部活動

(1) 物支援

寄付件数は団体、個人、企業からの 3 件（平均 9 回）、提供は 17 件（平均 24 件）で、物品としては寄付・提供ともに机、椅子、家具類が主となっています。

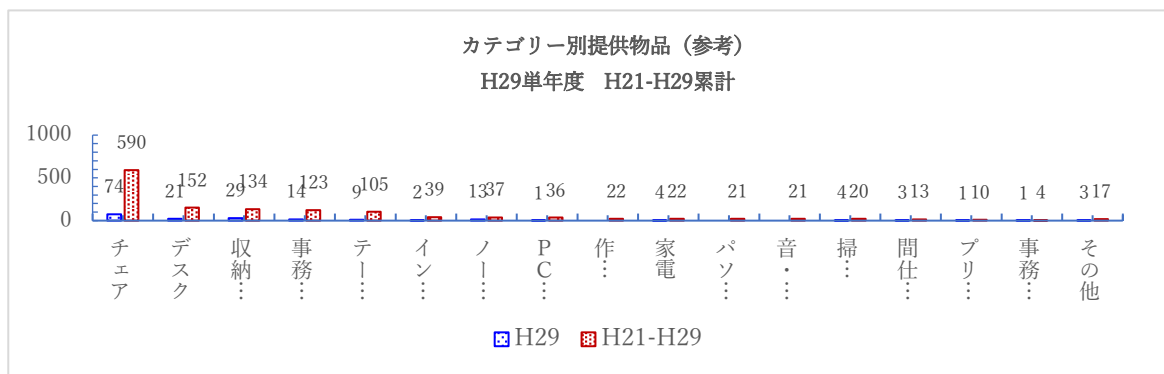
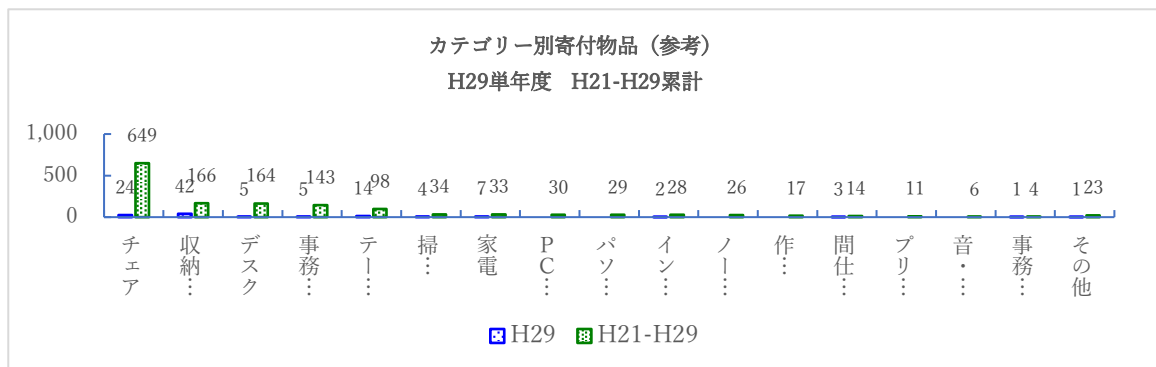
1) 寄付・提供数量の推移(個)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	累計
寄 付	156	445	366	123	37	487	334	150	108	2, 206
提 供	21	130	295	241	164	508	80	143	179	1, 761

2) 寄付・提供件数の推移(件)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	累計
寄付	9	6	8	6	13	23	5	9	3	82
提供	34	26	20	36	13	32	22	14	17	214

3) 寄付・提供物件



【評価と課題】

年度はじめに机、椅子などの在庫品に団体から多くの需要があり、その結果在庫品が激減したため、北八王子工業団地を中心に新規企業の開拓を行いました結果に結びつきませんでした。しかし、年度末に東京都心の企業より大量に寄付いただいたことで団体ニーズに対応することができました。課題として、今後とも寄付者に対してCSR活動や「物」有効活用に訴求するとともに、団体活動へ提供後の利活用状況を報告することでファンド事業や寄付行為への賛同を得ていきたいと考えています。

(2) 人財支援

引き続き特定非営利活動法人サービスグラントのアドバイス等得ながら、今年度も2団体の課題の伴奏支援に取り組みました。また、他市からの人財支援の取り組みについて来館ヒヤリングがあり、昨年の福山市、吹田市に続き、小平市民活動ネットワーク(小平市)や四日市市民協働安全課に対応しましたが、市民活動における人材支援の広がりを感じています。また、明治学院大学で開催された東京ホームタウンプロジェクト(ホームタウン大学)で今年度実施した2件の事例報告を行いました。

1) 支援実績

①障害者福祉団体の「業務課題の整理と商品開発」について

作業環境の改善(整理整頓)を中心に、布生地など在庫を活かした幾つかの製品開発を提案をいたしました。

【評価と課題】

プロボノワーカーからの様々なアイデアに新たな気づきを感じて頂きました。一方で、大きなテーマであった業務課題の整理は団体の現状とワーカーの認識の違いもあり十分な成果を出せなかった点は、プロボノ支援事業として今後活かしていきます。

②環境保全団体のホームページの改善

専門知識がないとメンテ更新がし難い現行ホームページを情報発信や更新がし易い方式にしたいという課題に取り組みました。団体スタッフとの協議を重ね、ワードプレス形式を取り入れました。

【評価と課題】

ホームページの発信力の必要性や効果への理解が進んだことや複数のメンバーが関わられるようになったことで、従来の年間2～3回であった更新が、2ヶ月で10回以上の更新、掲載が行われるなどホームページの活性化に結び付きました。

3) プロボノワーカー登録

プロボノワーカーへの新規登録は6名で、登録者数は21名となりました。今年度は明星大学、東京高専、武蔵野美術大学を訪問し、学生のプロボノワーカーの勧誘も行いました。また、登録ワーカーとの関係性維持や今後の取り組みについての情報交換会を開催しました。今後とも多様な人財の登録に取り組んでいきます。

4) 支援団体の開拓

今年度2団体のサポートでしたが、支援センター窓口相談業務、専門相談との連携による団体の発掘やプロボノ事業（人財支援）に関するイベントを開催しながら、事業の認知度を高めさらに利用していただける事業を目指していきます。

(3) CANPAN 団体情報

新たに6団体が登録、前年度42団体から48団体に増加しました。また、規定によりCANPAN情報開示レベ★★★以上のゆめおりファンド認証団体3団体に「認証盾」を贈呈しました。

1) ゆめおりファンド参加団体と八王子市内のCANPAN登録団体の年度別推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
八王子全体	39	44	62	80	87	100	111	127	139
ゆめおりファンド	17	25	32	37	38	41	43	42	48

2) ゆめおりファンド参加団体と八王子市内のCANPAN登録団体の情報開示レベル

情報開示レベル	ゆめおりファンド	八王子全体
★★★★★	2	4
★★★★	2	9
★★★	1	2
★★	9	26
★	34	98
計	48	139

【評価と課題】

団体活動情報公開の必要性と有効性の理解を得つつ、引き続き「ゆめおりファンド事業」の情報発信を進め、登録団体の増加を目指します。

【2】協議会自主事業

1. 総務部・事務局

協議会は支援センター管理運営のほか、様々な活動を行っています。直接担当する理事勉強会、理事年末研修会、新年交流パーティーに加え、わくわく広場、オトパ等を後方支援しました。H29年度には、ネットワーク事業部の事業として理事中心の運営となった「地域で支えるネットワーク事業（略称：地域ネット）」3回のシンポジウムや勉強会の開催にあたり、会員への連絡、集客に協力しました。

(1) 会員管理

平成 29 年度は、前年度に引き続き会費回収などの会員管理強化を行いました。月単位での集計を標準化し、実態に沿った体制にしました。会費未納会員は当年度も多数発生しています。対応として年間 3 回文書で督促しています。3 月には電話でも督促しています。原則として 2 年未納の方は本人に確認し退会処置をとっています。市民活動団体、さらには協議会を知っていただくために、オトパ、はちおうじ志民塾、シンポジウム等で PR していますが、なかなか成果につながりません。

会員数の推移		
	28 年度末	29 年度末
団体正会員	67	69
個人正会員	50	57
賛助会員	50	47
協力会員	31	27
合計	198	200

(2) 三役会

メンバーは理事長、副理事長、事務局長、各専門部会部長、支援センター長計 8 名で構成しています。基本的に理事会の 1 週前に開催し、各部門の進捗・問題点、協議会共通事項に関して 1 次検討を行い、理事会に提案としています。

(3) 理事会

- ①基本的に 1 回/月理事会を開催しています。可能な限り議事案および関連資料を事前にデータで理事に送付し、目を通していただくことを前提とし、当日はプロジェクターを使用し紙資料の配布を抑制しています。
- ②8 月には「これからの協議会をより発展させ、着実な歩みを進めてゆく」ため協議会としての取り組みの検討を行いました。現在の受託事業の継続的な確保、福祉分野の次年度からの継続活動(WAM 助成以降の資金確保)、その他の課題の 3 テーマに関する問題提起を受け、3 グループに分かれ検討しました。終了後タブレットを使い、生き生きハンドブックの検索勉強会を行いました。
- ③12 月には月曜日の午後半日検討会を開催しました。藤岡自治研究センター長に「福祉行政の推移と現状」に関してお話いただき、小人数の 3 グループに分かれ「これからの地域ネットワーク活動の課題と進め方」をテーマにディスカッションし、最後に各グループで発表していただきました。

(4) 新年会員交流パーティー

平成 29 年度は 1 月 27 日(土)の午後前半シンポジウム、後半パーティーという新しい企画で開催しました。昨年参加者 60 名に対し、今年度は 80 名と盛況であった。前半の参加者は 93 名でシンポジウムとのコラボの効果があつたと思われる。今年度も理事の皆様が割りあて表に基づく電話勧誘をお願いしました。参加者には、石森八王子市長をはじめ国会議員、都議会議員、市議会議員や行政関係者、団体、個人会員など、様々な分野の方に参加していただき、それぞれの情報交換ができ、協議会の特色のある交流会となりました。

恒例となった連続 10 年会員在籍者への感謝状贈呈対象は、5 団体 2 個人でした。さらに今年度は、わくわく広場において戴いた寄付金を基に、市民活動団体支援金として「南大沢を知ってほしい会」に支援金を贈呈いたしました。多額寄付者 1 名にも感謝状を贈呈いたしました。

(5) 事務局

当年度は従来事業に加え、市制 100 周年記念事業として「八王子 NPO フェスティバル」開催、地域ネット事業への注力等有、理事の負担が大きく、事務局を担っていただけるスタッフを確保が難しくなりました。事務業務は元支援センタースタッフであった女性にサポートをお願いしました。各イベントの運営等中心にその都度役割を検討し対応しました。

(6) 西武信用金庫助成金の窓口

当年度も第 5 回西武街づくり活動助成金の受付・推薦窓口を受託しました。当年度は全体でも応募が多く、協議会で推薦した団体 10 団体中 7 団体が助成対象に採択されました。この窓口業務は協議会にとっては NPO の様々な活動内容が把握できる貴重な場となっています。

(7) 女性・若者・シニア創業サポート事業 (女若シ創業サポート事業と略す)

女性・若者(39 歳以下)・シニア(55 歳以上)の創業者に対して、東京都は 100 億円の原資を信用金庫・信用組合に預託することで、創業者に有利な条件での融資を実行する事業を推進しました。協議会は「地域創業アドバイザー」としてかかわっています。29 年度は 9 月に初めて説明会セミナーを開催しま

した。個別相談3件、事業評価4件、融資実行5件、ハンズオン支援延べ9回実施しました。前年に引き続き外部専門家スタッフとして協議会と関係の深い著作権推進会議メンバーに本事業のまとめ役をお願いしています。

【評価と課題】

総務部・事務局は直接担当するイベントに加え、協議会が行う様々な事業を後方支援しました。市制100周年記念事業として「八王子NPOフェスティバル」開催、地域ネット事業への注力等、理事の負担が大きく、事務局を担っていただけるスタッフを確保が難しくなりました。元支援センタースタッフに2回/週午前中のパート勤務をお願いし、対応しました。女若シ創業サポート事業では、外部の専門家(行政書士)をスタッフとして協力いただき、業務を効率化しました。

会費未納者の管理を厳密に行うようにしたので、退会する会員が発生しています。当年度は前年度に比べると若干増やすことができましたが、協議会の存在意義を周知徹底し、退会者をなくすとともに新規会員を増員する工夫が必要です。

2. 広報部

広報部は、読み手(会員)の視点に立ち、協議会に求められる適切な情報を提供することに努めています。29年度は昨年から引き続き、ホームページの充実にも努めました。

(1) 協議会だより

29年度も毎偶数月(6月、8月、10月、12月、2月、4月)の1日付で6回の協議会だよりを発行しました。4ページ、オールカラーで1800部発行しています。読みやすく親しみやすさに加えて、会員に役立つ情報の掲載や、相互のコミュニケーションツールにも利用できるような協議会だよりを目指しています。しかし4ページの紙面では掲載する内容も限られるという課題もあります。現在は市内の公共施設を中心に配架しておりますが、適宜会員や理事の方にも協力いただき、民間の施設や店舗などにもお願いしております。また、各種協議会のイベントでもその都度配布しています。

(2) ホームページ

28年3月から市民活動団体、市民、行政などを双方向でつなぐコミュニティ応援サイト「はちコミねっと」が開設され、市民活動支援センターが運用管理にあたっています。それにより多くの会員市民活動団体も、「はちコミねっと」に簡易ホームページを作成することになりました。これに伴い、一昨年より協議会のホームページでは会員向け無料掲載の「1ページホームページ」を廃止し、ホームページをリニューアルしました。昨年度は、協議会の事業別にページを設けるなど、ホームページを利用する皆様が必要とする情報を、分かり易く見やすく編集することを心掛けました。

【評価と課題】

- ① 協議会だよりは、読みやすく親しみやすい情報源としての協議会だよりを目指し、これまでにオールカラー、紙質の向上、増刷を行ってきました。加えて、会員に役立つ情報の掲載や、相互のコミュニケーションツールにも利用できるような協議会だよりを目指していますが、4ページの紙面では掲載する内容も限られ、内容がマンネリ化していないかとの課題があります。編集に関わる人員の不足も問題です。また、現在は市内の公共施設を中心に配架しておりますが、配布先の開拓も課題の一つです。将来的には発行部数の増刷も目指しています。しかしこの課題は近年慢性化しており、編集を担う人材の募集にもなかなか応募者がおりません。30年度は編集委員の増員とともに、協議会だより紙面のリニューアルなども予定しております。協議会だよりは、当協議会の活動を発信し、会員とつなぐ重要なツールです。また、会員の掘り起こしにも有用なものです。そのような視点からの紙面編集がより一層求められています。
- ② ホームページに関しては、28年度にリニューアルをして、協議会としての必要かつ十分な情報を適宜更新するように努めました。ホームページを訪れていた人が、必要な情報をわかりやすく取得できるように、情報源として利用価値と頻度が高いホームページを目指していきたいと思えます。今まで以上に、協議会が中間支援団体として身近な情報源となるようなホームページを目指しています。

3. ネットワーク推進部

(1)お父さんお帰りなさいパーティー(略称:オトパ)

平成 29 年度も 9 月に南大沢、3 月に労政会館と 2 回オトパを開催しました。オトパ in 南大沢は多摩地域のメンバーを中心とした実行委員会で企画運営しています。テーマ「多世代で地域をつなぐみんなの集い」です。首都大学学生を中心としたみなみおおさまカフェに加え、中郷公園においても集客を狙いとして、社交ダンス、ジャグリングを披露していただき多世代の輪が広がりました。昨年並みの 240 名の参加があり「オトパ in 南大沢」バージョンが根付いてきました。ただシニア世代が少なかったのは課題です。

3 月には「きつと見つかる！新しい仲間～地域の活動博覧会～」をキャッチコピーとした第 20 回「オトパ」を、約 220 名の参加者を得て八王子労政会館で開催しました。今回は市制 100 周年にオトパもけじめの第 20 回でしたので歴史をポイントの一つとしました。元 NHK プロデューサーの間宮章さんに「もっと知ろう八王子のこと～明治維新からの 150 年」と題し歴史を含めた八王子の魅力を講演していただきました。八王子の昔の風景写真を展示すると併せ、オトパの第 1 回から 20 回までのチラシをずら～と展示しオトパの歴史を実感していただきました。団体見学では初参加者はガイドを中心に小グループに分かれ、出展団体(37)を見学しました。交流会では各テーブルで参加者、出展団体関係者が混ざり合い、にぎやかに話の花が咲いていました。その他今回のポイントとして①創価大学の講師および学生がスタッフとして参加されました。③生き生きハンドブックの Web を使った説明会を実施しました。③テレビ朝日スーパー J チャンネルで放映されました。

【評価と課題】

南大沢におけるオトパは子ども育成世代対象、首都大学等地域との連携という南大沢スタイルが見えてきました。シニア世代の参加が少ないのが課題ですが、1 つのスタイルが出来たと言えます。労政会館オトパはシニア世代対象ですが、一般参加者が減少しています。今回は楽しさを打ち出し、「地域の活動博物館」大きく打ち出したチラシを作成しました。反省会では奥様への働きかけを工夫し、男性を押し出してもらう案等が出ました。次回の検討項目とします。

(2)東京高専 de サイエンスフェスタ

当年度の「東京高専 de サイエンスフェスタ」は 10 月に「第 49 回くぬぎだ祭り」と同時開催されました。協議会からは従来からの「八王子住まいづくり市民塾」「カウンセリングスペース まてりあ」「八王子お手玉の会」「小原清さんの竹細工」、八王子市レクリエーション協会に出展していただきました。いずれも好評で予約はすぐに埋まる状況でした。

【評価と課題】

このフェスタは子ども及び子ども育成世代と直接コンタクトできるイベントであるので参加していましたが、4 月に入り東京高専から事業打ち切りとの連絡をいただきました。

(3)第 38 回八王子いちょうまつり「わくわく広場」(11 月 18 日・19 日)

本年は 32 団体(内 5 団体が新参加)が実行委員会に参加し、実行委員長は決めず、事務局だけで 9 月よりスタートし、実行委員会を 3 回開催しました。本番 11 月 18 日(土)は雨が降る予報に翻弄されましたが、何とか雨には降られず、人出は少なかつたものの無事に一日を終えました。野外ロックコンサートの学生が長房市民センター体育館で演奏を行い、にぎやかでしたが展示作品をゆっくりと見て歩くことが出来ませんでした。19 日(日)は少し風が冷たいものの天気恵まれ、イチョウ並木からこぼれてきた人たちが賑わいました。特に子ども連れの方やお年寄りの方には「ほっとできる場所」となっていました。今年はフードコートの出店が少なかったこともあり、椅子に座って食事ができる場所も多く、市民センターの和室(新たな担当団体)には乳幼児連れの家族がゆったりと過す姿がありました。例年の箱庭や綿菓子、紙すき、吹き矢体験(新団体)、新たにプラ版やラインナップなどの体験も加わり、子どもたちの笑顔あふれる会場となりました。今年は協議会が手薄の分、参加団体が一丸となって、テントや机の運搬も含め、準備・片付けと奮闘していただきました。正に市民力に支えられた「わくわく広場」でした。

【評価と課題】

いちょうまつり「わくわく広場」は年々協議会が手薄になっています。一部ではありますが、参加団体が自ら動くようになっていきますので、実行委員会の運営を工夫し、参加団体全体で取り組むような仕掛けが必要と思われます。また、協議会は参加団体としても「綿菓子体験」のみとなり、主体的な取り組みが

出来ていません。併せて検討すべきです。

(4) 井戸端会議

八王子市子ども家庭支援センターが主催して、協議会が協力して進めている「子育て支援団体ネットワーク」を平成30年2月18日(日)、クリエイトホールにて開催しました。参加は新たに「食堂ネットワーク」加盟団体も加わり、17団体26名となりました。テーマは「“1+1=∞(無限大)”連携から生まれる新しい一歩」とし、グループに分かれて、選んだテーマでワークショップを行い、子どもを中心とした視点で地域づくりを考えました。グループごとに1枚の画用紙にまとめ、5月13日開催の「八王子ふれあいこどもまつり2018」に展示いたします。

【評価と課題】

井戸端会議の「子ども支援団体ネットワーク」は平成21年度開催の市民フォーラム「井戸端会議—子どもと共に地域をつくる」を引き継ぎ、平成22年度からは八王子市子ども家庭支援センター主催、八王子市民活動協議会共催で「子ども支援団体ネットワーク」を毎年開催してきました。特にここ2～3年は八王子市子ども家庭支援センターが主として開催し、協議会との共催事業とは認識されていないのが現状です。今後は協議会の共催としてではなく、その役割を「子ども支援団体ネットワーク」参加団体の代表メンバーへの移行することも視野に入れ、考える必要があります。また、本来の協議会主催の「井戸端会議」(テーマ、地域ごとの団体交流・ネットワークづくり)は、ここ3年間WAMで行ってきたシンポジウムがその役割を果たしてきましたが、来年度からは新たに名称の変更も含め、市民活動団体のネットワークづくりを主としたイベントも必要と考えます。

(5) 地域で支えるネットワーク事業(略称:地域ネット)

平成27年度に開始した「活き生きハンドブック」作成は、3年連続でWAM(社会福祉振興助成事業)の助成を受けて平成29年度も発行することができました。過去2年間、当該事業を主導してきた政策研究部絆グループの活動をネットワーク推進部地域ネット実行委員会が発展的に引き継ぎ、理事のほぼ全員が関わっていただけました。また、3回実施したシンポジウムは、先進事例の習得や大学・福祉関連機関との連携を深めることができました。

【評価と課題】

初年度が約60団体、次年度には約100団体、そして平成29年度は約150団体と、掲載団体数の増加によるコスト増・ボリューム増への対応もあり、ホームページ(データベース)との連動性を高めました。さらに、第20回オトパにおける団体紹介冊子との統合も実現させ、効率的な編集・発刊が可能になりました。

行政・福祉機関・市民活動団体や市民の期待に応じていくためにも、理事や会員および関係者が一丸となって工夫と努力を重ねることで、助成金がなくなった平成30年度を乗り切って事業を継続していくことが最大の課題です。

4. 政策研究部

政策研究部は、協議会の基本理念を実現するため、課題解決に向けた施策の企画・立案を行う役割を担っています。そのため、理事は全員が「政策研究部」に所属して課題の掘り起こしと、その課題検討～解決策提案などを理事会に提言することを目標としています。

昨年度まで政策研究部の一部門として成果を上げてきた「(旧)絆グループ」の活動を、「ネットワーク推進部」の新規事業として移管した上でスタートしました。

(1) 課題の掘り起こし・セレクト

①理事が個別に考えている課題

「協議会理事立候補に当たって作成し提出した所信」を「事業企画書」に纏めて発表し、理事全員で討議する中から、政策研究部として取り上げるべき検討課題を発掘する試みを行ないました。

【評価と課題】

成果としては、各理事の発表を聴くことで、各理事が考えている課題を協議会としてどのように行なえるのかなど議論を深めましたが、継続して検討すべき課題の絞り込みには至りませんでした。

②日常の活動を通して新たに見出した課題 および

③活動団体が抱える問題(課題)の掘り起こし

【評価と課題】

「地域包括ケアシステム」構築に向けた活動は、協議会の理念「地域に貢献する」ことにつながることから、年度を通して、3回の「シンポジウムの企画～立案～推進」に積極的にに関わり、参加者(団体・市民)の声を「会場での発表・交流」や「アンケート」を通しても捉えることが出来ました。また、理事にとって「シンポジウム」や「団体調査」への参加は、福祉関連以外の活動団体とのつながりが深まり、現場の声を聴くことで、理事のレベルアップに繋げることが出来ました。

今後は活動団体・市民が参加する従来の形の「交流会」を開催して幅広く課題収集に努めて行きたいと考えます。

(2) 解決策の検討～施策の企画提案

【評価と課題】

今年度は企画・提案作成に至る課題は見いだせませんでした。2回の「理事研修会」①8月20日②12月4日では、協議会の今後を見据えた意見なども多く出され、今後の協議会・支援センター事業についての議論も行なわれました。その後協議会として「支援センター検討プロジェクト」が立ち上がったことで、その成果が待たれます。

①テーマ「WAM助成で進めてきた”生き生きハンドブック”作成と運用(データの見直し調査、啓蒙、冊子更新や発行など)を、継続事業として行なうには」

⇒WAM助成は次年度以降期待できない(国の機関助成事業は3回がリミットと云われている)、また市への助成要請がすぐ実現するのは難しい状況にあり、協議会の将来を見据えると、大きな柱に育ったこの事業を将来にわたりどのような形で継続してゆくのが問題提起され、研修テーマとして対策が討議されました。

②テーマ「協議会として取り組んできた福祉分野への活動と今後の進め方」

&「協議会が本来の役割を果たすための課題と対策」

2つのテーマで討議を行ない、協議会の今までの活動と今後の進め方などに関して、共通の問題意識を持つことが出来た研修会とすることができました。

(3) 理事 OB 会

【評価と課題】

現在、協議会主催の各種イベントには理事OBの方々の参加は多く、今の時点でOB会を組織化する必要性は見いだせませんでした。今後とも「交流会」「イベント」などの開催に当たっては「協議会だより」・「さぼーと802」やHPなどのネット情報でPRするなど情報発信に配慮することで、OBとの良いつながりを継続してゆきたいと考えます。

5. プロジェクト

(1) はちおうじ志民塾

地域で活躍、活動する担い手を育成する「はちおうじ志民塾」は、2月に第9期の塾生31名が卒塾し、志民塾卒塾生は総勢203名になりました。志民塾OBによる今後の地域での活躍が益々期待されます。

第9期の志民塾は昨年同様、9月開講、2月の卒塾までの半年間の受講期間で一期制としました。31名の受講生は5つのグループに分かれてグループワークをしたり、自主的に団体を訪問見学したり、卒塾発表に向けての話し合いを重ねたりと沢山の活動をこなし、その間に培われた仲間同士の繋がり、絆も志民塾受講者の宝物になります。今期も市外からの申し込みや問い合わせがあり、「はちおうじ志民塾」の評判も市外、都外に広がっています。また、9期募集を兼ねてプレ志民塾を開催し、卒塾生の活動紹介や講演を行ったことによって志民塾への周知や関心が広がったと感じています。

卒塾生たちは八王子の地域活動の担い手として大きな力になっています。今後も協議会は卒塾生たちの活動を支援していきます。

【評価と課題】

① 受講生の増大

第7期12名から8期は18名(入塾手続き者21名)、そして9期は定員超過の31名と受講者が増えています。7期終了後に、志民塾が始まった7年前とは社会環境も変化しており、カリキュラムの内容を改める時期ではないかとのことから、8期は前期・後期に分かれていたカリキュラムを通期にして、7

月開講から9月開講にするなど大きな改訂を行いました。それにより、スケジュールも一本化され、受講生も学び易くなりました。市からの委託事業ですが、協議会からも積極的に提案した結果が功を奏したと思っております。

② プレ志民塾の開催効果

また、今期からの試みとして、「プレ志民塾」を開催しました。基調講演と卒塾生による活動紹介を行い、その後ミニ懇親会で情報交換ができる場所を設けたことにより、志民塾の周知に役立ち、受講生増にもつながりました。

③ 今後の卒塾生の動向調査とフォロー

一方で総勢203名となった卒塾生達がどのような活動をしているかの把握が十分ではありません。今後は卒塾生の活動動向調査や、活動の場の提供、紹介にも一層力を入れて、卒塾後のフォローアップ体制も整えていかなければなりません。

④ 事務局体制の充実・強化

更に市からの委託事業として、塾生が受講しやすいように運営していく事務局としての力量も問われます。現在理事を中心に3名が運営にあたり、適時志民塾OBや理事にお手伝いをお願いしておりますが、人員配置をふくめ業務の内容や役割分担なども一層検討していく必要があります。

(2) 八王子NPOフェスティバル

八王子では環境、福祉、子育て、まちづくりなど様々な分野で市民活動が展開され、地域の課題について市民自らが主体となりその解決に向けて活動する団体が多数あります。市民活動団体の多様な活動を広く市民の皆様にご存知いただくとともに、市民の地域参加のきっかけの場とし、こうした活動を次世代(100年未来)に継承することを目的に市民活動を「知る、楽しむ、参加する」をコンセプトに市制100周年記念事業市民提案事業として開催しました。5月をNPO月間とし、ユーロードでのブース出展やステージパフォーマンスそして、八王子の文化・歴史を訪ねる4コースのまち歩き、そして八王子を象徴する3地域(小津・中央・南大沢)をリアルタイムでネット中継し、多様な市民や団体が集う「NPO八王子会議」を開催しました。

【評価と課題】

多様な分野の団体、大学、商店振興組合、老舗商店、寺社、関係諸官庁等との連携・協力によって、実施した様々なイベントをとおして、延べ1万2千名を超える多様な世代の方々に市民活動、地域活動の元気な姿や、八王子の宝物を発信でき、楽しんでいただいたことは大きな成果でした。多世代の市民や団体が参加し、作り上げた事業は、地域をみんなで支え合うことが求められているこれからのまちづくりに良質な効果が出てくるのではと期待し、引き続き中間支援組織として、地域活動の活性化に取り組んでいきます。なお、この事業は約11の団体及び市民、学生等で構成された実行委員会で運営され、最終的に代表団体である協議会が八王子市の補助金の適用がない費用を負担することで、市制100周年記念事業市民提案事業補助金交付事業報告書を提出しました。

(3) 資金支援検討プロジェクト

八王子では多くのNPO・市民活動が様々な地域課題に取り組み、住み続けたいまちづくりに取り組んでいます。しかし、その運営基盤は充分ではなく、人材、備品、資金など多くの課題を抱えているといわれています。そうした中、市民活動支援センターの指定管理者基本協定書に、「ゆめおりファンド」事業の推進が規定されており、現在、「物の支援」、「人の支援」を実施していますが、次のステップとして「資金支援」が求められています。そこで、今年度、今後の「資金支援」の準備として、その仕組み・手法について調査研究を進めるプロジェクトチームを立ち上げました。

【評価と課題】

資金支援の事例研究(資料収集)、実施事例のヒヤリング(実施団体に出向き実態調査)を行い、今年度は結果を報告書にまとめました。今後は報告書に基づき、さらに検討を進めていく予定です。

(4) 支援センター事業検討プロジェクトチーム

近年の少子高齢化による社会環境の変化や様々な制度の変更が進む中、中間支援組織には、ニーズや実施事業に的確な対応が求められており、市民や団体、行政、大学、企業など地域を構成する様々な関係者とともに、地域を包括的に支える仕組みづくりを進めていかなければなりません。こうした中、協議会の最大の事業である八王子市市民活動支援センター事業を八王子市の指定管理者として、改めて支援センターの効果的で社会環境に対応したサービス、事業を検討、創出し、期待される支援センタ

一事業を進めていくことが求められています。

評価と課題

プロジェクトチームは協議会理事、センタースタッフの約10名と、外部の多様な意見、視点も必要な事から、経験豊富な人材の参加も得て進めおり、今後の検討をとおして、ニーズ把握のアンケートやヒヤリング等による実態把握と、具体的な事業の見直しや新たな事業の検討を進めていきます。